

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 愛媛県 】

学校名【 松山市立内宮中学校 】

| | |
|--------------------|---|
| 1 実践テーマ | ①・Ⅱ・③・Ⅳ・⑤（複数選択可） |
| 2 実施対象者 (学年・人数) | 全校対象学校行事（体育大会・オリパラ教育講演会） 全校生徒 431名 教職員 28名 体育大会 保護者約700名 |
| 3 展開の形式 | <p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 (体育大会)</p> <p>③ その他 (オリパラ教育講演会) (オリパラ掲示板の作成と活用)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 (愛顔のふれあいフェスタ) 特別支援学校生徒と地域住民との交流会で、ボッチャとフライングディスク（アキュラシー）を実施</p> <p>② その他 (人権啓発推進大会) 車いすバスケットとボッチャの体験会を実施</p> |
| 4 目標 (ねらい) | さまざまなスポーツへの興味や関心を高め、スポーツの持つさまざまな価値を学び、積極的にスポーツをしたり、見たり、支えたりしようとする意欲と、インクルーシブ社会の一員としての自覚を持った生徒を育成する。 |
| 5 取組内容 | <p>I 体育大会における演出</p> <p>1 1964年東京オリンピックマーチ（古関裕而作曲）のファンファーレを開会式前に演奏した。</p> |



2 開・閉会式において聖火リレーや聖火点灯・消灯を行った。



3 閉会式では、「アスリートファースト」の精神を表現し、被表彰者を表彰台に上げて賞状・優勝旗等を授与した。



Ⅱ 体育大会に障がい者スポーツの種目を導入

1 フライングディスク（アキュラシー）をアレンジした種目



けがで激しい運動を制限されていた生徒も参加でき、喜んでいました。その経験から障がい者スポーツの意義を実感することができました。

2 視覚障がい者の短距離走をアレンジした種目



視覚障がい者の困難さを実感するとともに、効果的な支援方法を体験を通して学ぶことができた。

※ I・IIについては放送で説明したり、「今年度の体育大会の見どころ」を記載した観覧ガイドを配付したりして、オリパラ視点を観客に強調した。

Ⅲ オリパラ教育講演会

講師は池見敬子氏（本校卒業生：なぎなた世界選手権優勝2回、皇后杯全日本選手権優勝7回）



なぎなた経験のある本校教員との演武



剣道部員との対戦も行った



IVその他

- 1 「オリパラ掲示板」を作成し、スポーツに関するさまざまな情報を発信し、スポーツを中心とした学びの場とする。



メダルデザインが発表された時期の掲示板



ラグビーワールドカップ時期の掲示板



生徒の自由研究（夏休みの自由課題）

2 地域における活動

① 愛顔のふれあいフェスタ

特別支援学校が開催した交流会に生徒が参加し、ボッチャとフライングディスク（アキュラシー）を、地域住民や支援学校の生徒と一緒に楽しんだ。



ボッチャは支援学校生徒・地域住民・中学生の混成チームで楽しんだ

② 人権啓発推進大会

車いすバスケットとボッチャを体験



車いすの操作を練習した後、早速ゲームを行った

| | |
|----------------------------|--|
| <p>6 主な成果</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育大会に聖火リレー・聖火点灯などの演出を取り入れることにより、2020東京オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高めることができた。 ○ 体育大会に障がい者スポーツの要素を盛り込んだ種目を取り入れ、生徒が競技を行うことにより、障がい者スポーツの存在を知るとともに、障がい者の日常生活の困難さや苦労を実感することができた。 また、誰もがスポーツに親しむことができる機会が増えていることを知り、共生社会について考えることができた。 ○ トップアスリートによる講演から、努力を継続することの大切さ、納得するまでとことん努力すること、悔いのない生き方をすることなどを学び、自分の生き方に生かしていこうとする意識が高まった。 ○ 地域の人権啓発推進大会や特別支援学校での交流会に参加して障がい者スポーツを体験することにより、障がい者の人権について考えたり学んだりすることができた。 |
| <p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1 オリパラ教育講演会 講師として、本校卒業生の元なぎなた世界選手権チャンピオン(優勝2回)の池見敬子氏を招いた。母校の先輩にトップアスリートがいることを知ることで、母校への誇りを持たせることもねらいとした。 2 地域との連携 まちづくりコミュニティ会議の人権教育推進部と協力し、障がい者スポーツの体験を通して人権について考えることを提案した。その際、生徒の多様な体験を促すため、本校の体育大会で行わない種目(車いすバスケ・ボッチャ)を取り入れてもらうよう依頼した。 また、校区内にある特別支援学校での交流会に生徒・教職員が参加し、スポーツを通じたインクルーシブな社会への理解を深める機会とした。 3 継続的な活動とするために 「オリパラ掲示板」を作成し、さまざまなスポーツに関する情報を発信している。 夏季休業中に生徒に取り組みさせたオリンピック・パラリンピックに関する課題(自由研究)の優秀作品を掲示したり、ラグビーワールドカップ期間中にはラグビー関係の掲示を行ったりして、継続的に活用するよう心掛けている。 |

| | |
|---------------------|--|
| <p>8 主な課題等</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1 新規に事業を起こすことは多くの労力を要する。既存の行事を見直してスクラップ&ビルドで実施することが望ましい。 2 トップアスリートによる講演会の講師について、世間ではビッグネームの方でも、生徒にとって認知度が高いとは限らない。生徒の実態や講演会の目的にふさわしい講師を依頼することが重要だと考える。 3 体育大会や講演会などの行事のときだけでなく、さまざまな機会をとらえ、継続的に情報を発信していくことが大切だと考える。 4 さまざまな視点からスポーツを見る（捉える）ことが必要であると考え。 <ul style="list-style-type: none"> 一例として、本校の家庭科担当教員は、ラグビーワールドカップの際に、「家庭科の視点」から、フォワードとバックスのユニフォームは、それぞれのプレーの違いから素材や特性が異なるということを生徒に伝えていた。 教科担任制である中学校以上の校種では、音楽、美術、歴史、地理、数学など各教科の視点から情報発信していくと、より多くの生徒の興味関心を高めることにつながるであろう。 |
| <p>9 来年度以降の実施予定</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピック実施年であるので、今年度の活動をベースとしつつ、スポーツに関する興味・関心を更に高める取組を行う。 (体育大会においては、オリンピック東京 2020 で演奏される行進曲のファンファーレを取り入れるなど、新しいものを積極的に取り入れていく) ○ 今年度のアンケート結果を分析し、来年度の実施計画に生かしていく。 |